

かわさきTMO通信

<かわさきTMOの最新情報はホームページで閲覧できます>

2019年3月号 No.74

- 第3回ワークショップのご報告
- 通行量調査のご報告
- 事務局たより

発行元：かわさきTMO
 発行責任者：会長 武藤 聡宏
 編集責任者：サフトウンマネージャー
 大木 淳

発行日：2019年3月25日
 発行部数：1,000部

◆連絡先
 TEL：070-1458-5568
 Email：okuyama-tmo@outlook.jp
 かわさきTMO通信は「まちづくり情報交換誌」を目指しています。
 お気軽に情報をお寄せください。
 ご意見・ご感想・ご要望大歓迎です！

●第三回「かわさき未来づくりワークショップ」のご報告

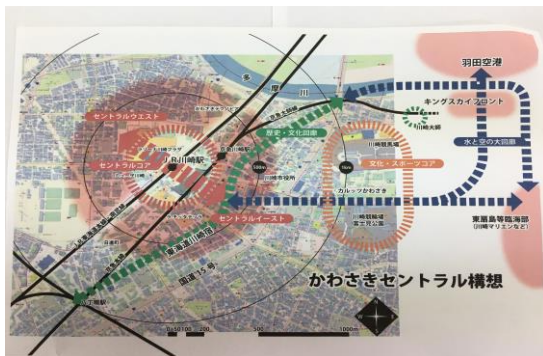
三月十三日(水)、川崎市産業振興会館十二階 経済労働局会議室にて、「第三回かわさき未来づくりワークショップ」が開催されました。参加者は企画者、オプザーバーを含め四十七名でした。まず、これまで検討してきたまちづくりの方向性として、平成三十年三月にとりまとめた「TMOからの提言」明日のかわさきACE戦略」を基軸に、川崎駅周辺の発展に必要なことを「●便利がよく、●綺麗で安心、●楽しいまちづくり」とし、その戦略として、

提言一「川崎駅南都市軸の形成」：川崎駅東西を結び、駅から富士見公園まで繋がる三つの東西都市軸と多摩川に至る南北軸で形成される都市構造を川崎駅周辺地区の将来像にむけての骨格とします。

提言二「個性ある魅力的な通り」：STREETをつくる」：骨格となる都市軸に個性ある魅力的な「通りSTREET」が血管のように張り巡らされることで、

市民、来街者、外国人の多様なニーズに応えものとします。

それにワークショップ等でいただいた皆様のご意見を加味して、「かわさきセントラル構想」を提案させていただきました。



- ① セントラルコア＝川崎駅＋大型商業施設によるにぎわい・結節拠点の形成
- ② セントラルイースト(ウエスト)＝繁華街の賑わいを活かした界限性の強化
- ③ 文化・スポーツコア＝競馬場・競輪場等、かわさきオリジナルのスポーツ拠点の形成
- ④ 歴史・文化回廊＝東海道川崎宿

コンテンツの集積・魅力の発信
 ⑤ 水と空の大回廊＝住む人、働く人、訪れる人、人々の流れ、大きな回遊の創造(川崎駅と多摩川、羽田空港・キングスカイフロント及び臨海部)

これからの課題は、①と②をどうつなぐか。①と③をどうつなぐか。④をどう集積し、展開するか。そして⑤を何によって実現するか。これらの推進には、「まちをキレイに魅せることが不可欠」です。



続いて「かわさきの”近ミライ”」として、第二回ワークショップでの提案内容を「かわさきセン

「トータル構想」に取り組み、それぞれの提案の進捗度或いは実現可能性を説明しました。その後、ご出席の皆様から全体を通してのご意見を頂きました。川崎の魅力とは何か、どのように人を呼び込むか、観光としての要素は何か等、多くのご意見を頂きました。

そのあと、インバウンドに関する取り組みについて、お二方から話を伺いました。

【インバウンドの取組み】

合同会社訪日インバウンド対応総合研究所 堀田実希氏から、川崎におけるインバウンドについて、話を伺いました。「川崎を知っている外国人観光客は少ない。ネットでの検索は知っている事しか検索しない。川崎大師の英語マップを八千部作成し、二千部を海外で配った。車椅子で行ける場所やイスラムの方々が食べられる飲食店等の情報を載せている。また、水曜日と金曜日の午前中、テーマを決めた文化体験ツアーを実施している。通訳者を増やす必要があるので、ボランティア



に頼む方向で動いている。

認知度が低い川崎に観光客を呼び込むには、羽田空港で直に外国人観光客に話しかけ、誘導する位の事をしないとインバウンドは成功しないと思っている。東京都の観光予算はケタ違いに多い。川崎の観光への意識を高める必要がある」とのことでした。

【横浜のインバウンド事情】

続いて、野毛商店街視察の時にお世話になったMDS株式会社 山岡社長から、話を伺いました。「横浜は国内では有名な観光地だが、外国ではあまりポピュラーではない。そこで、パシフィコホ

テルでの国際会議、企業研修の機会をとらえて横浜の魅力をPRし、本来、別の用事で来られた人々を観光に誘うような取り組みを行っている。川崎においても、具体的な機会、ターゲットを定めて働き掛けることが必要ではないか」とのことでした。

● 通行量調査のご報告

三月三日(日)・七日(木)、銀柳街、銀座街、チネチッタ、川崎駅等、川崎周辺十三カ所において、通行量調査を実施いたしました。今回は両日も雨天であったためか、三日が二十七万二千二百五人(昨年対比八十二%)、七日が二十四万七千八百六十六人(昨年対比八十%)という結果でした。

◆ 事務局たより ◆

私たちTMOは、三回にわたり【かわさき未来づくりワークショップ】を開催し、川崎駅周辺の活性化について様々な意見を求めました。参加者は、地元商店街、大型店、行政関係者、中学生を含む市民など延べ一六五人を数えました。ワークショップでの多様な意見

や提案を踏まえ、川崎駅の東西を結び魅力的な【セントラルコア】とし、にぎわいと結節拠点の形成を進めるべく、このたび【かわさきセントラル構想】を提案しました。

川崎を生んだ母なる川【多摩川の光と風】、日本最大級のショッピングモール【ラゾーナかわさき】、川崎フロンのリニューアル後の目玉施設【水族館】、チネチッタを中心に多くの市民と共に二十年以上をかけて築き上げた【日本最大級のハロウィン】、一年を通じた大型イベントと毎週開催される【バスカールイベント】等など。

川崎駅周辺の魅力は、川崎市ブランドメッセージ【いろいろって未来】の如く、様々な色が自由に混ざり合う多様性。瀟洒なショッピングモールをたどり、気が付けばアジア諸都市の迷宮のごとき路地となり、オレゴン州ポートランドのような人間中心の都市空間に至る。

私たちTMOは【セントラル構想】を出発点に、拠点連携を図り地域の魅力を発信してまいります。ぜひ、多くの力をお寄せください。

(リエゾンコーディネーター 伊藤和良)